

# 研修医の声

平成 31 年 3 月 佐野厚生総合病院

2019 年 3 月「研修医の声」を集めました。

当院での研修を検討される方々のご参考になれば幸いです。

コメントの内容は、そのまま掲載してあります。

この春当院を巣立っていかれた 2 年目の先生方

初期研修の折り返し地点となった 1 年目の先生方

それぞれの「研修医の声」から、

それぞれの人柄と

当院での多忙な業務にも、日々真摯に向き合っている姿勢

そして「一人一人の研修医を思いやり、決してドロップアウトはさせない」という当院の研修教育の本幹を感じとっていただければ幸いです。

ぜひ一度見学にいらしてください！お待ちしております。

## 2 年次研修医 伊倉直彦先生（慶應義塾大学卒）

佐野厚生総合病院で2年間初期臨床研修をさせて頂いた、伊倉と申します。

私がこの病院で初期臨床研修医をしようと思ったきっかけは、慶應義塾の地域実習プログラムにおいて、こちらの病院で1ヶ月実習をさせて頂いたことが大きかったです。その時、2週間ずつ違う科をローテートしましたが、その時に上についてくださった研修医の先生がとても優しく、頼もしかったのを覚えております。その研修医の先輩方に、研修先を選ぶにあたって、多くのアドバイスをいただきました。また、実際に1ヶ月いた期間で、医師を含むこの病院のスタッフすべての方がとても温かく接してくださいました。私は働いていく上で最も重要なことは、「良好な人間関係の構築」であると考えているため、この職場とは非常にマッチしました。

実際の研修生活においては、「ローテートの自由度が他の病院と比して高い」「最小回数を超えていれば、月の当直の入る回数も自由にコントロールできる」といった、「自由度の高さ」が大きなメリットとなります。私はマイナー外科志望であったため、その科を中心としたローテーションを組みました。ローテーションは研修医同士で相談して決めるため、大きく偏ることはありませんでした。また、志望科にかかわらず、すべての科の指導医が丁寧に教えてくれるため、大変勉強になりました。

また、手技が自分に回ってくる回数の多さも、この病院のメリットの一つだと思います。もちろん、最初からすべて自分一人で、というわけではなく、最初は指導医が行っていることを見学し、その次に指導医の監視のもと、手技をやる、というステップとなります。これは、医者一人に対する、患者さんの多さに起因していると思います。裏を返せば都会と比較して、医師の人数はやや少ないですが、その分、手技や、手術の第一助手といった、ハードルの高いことを研修医が担う場面が多いと思います。このポイントは、手技をたくさん経験したかった私にとって非常に大きなメリットでした。

佐野は比較的田舎ですが、アウトレットもあり、バスを使えば新宿まで1時間30分ほどで着くため、それほど田舎感を感じませんでした。コンビニやスーパー、美味しい居酒屋もあります。家賃も都内に比べ遥かに安く、家賃補助も多く出ます。少しでも興味が湧きましたら、ぜひ一度見学や実習にいらしてください。「ちょっとした田舎」に抵抗がなければ、きっと充実した研修生活を送ることができると思います。

## 2 年次研修医 須永将梧先生（慶應義塾大学卒）

佐野厚生総合病院での初期研修 2 年間を終えて、振り返りとともに寄稿させていただきま  
す。端的に申し上げると個性を自由に伸ばすことができる研修生活をおくることができた  
と考えています。これから当院での研修を考えている皆様のご参考になることができれば  
幸いです。

当院を一言で表現するならば「プラスアルファが充実した病院」であると思います。医  
師数が多いとは言えない当院では、初期研修医でも一医師としての戦力を求められること  
があります。それゆえに自ら医師としての能力を伸ばす努力が必要ですが、診療の幅が大  
きく広がったと感じました。一連の診断から治療に至るまで、特に救急外来では研修医が  
1st touch であるので実践的な医療を学ぶことができます。手技においても研修で取得する  
べき事項はもちろん、内視鏡やカテーテルなどさらに進んだ処置を体験することができ、  
今後においての大きなアドバンテージとなりました。また臨床のみならず学会発表等の活  
動においても盛んであり、研修医が発表者として準備を進めていきます。実際に発表をす  
ることでそれ自体が功績となり、目に見える形で成果を残すことができます。これら全て  
の分野で「医師」という職業として幅広い経験を積むことができ、今後への大きな糧とな  
ると思いました。

当院で研修を検討している方へ、当院での研修プログラムは自由度が高く、志望科を長  
期に研修するもよし、様々な診療科で学ぶのもよしという自分好みの研修日程を組むこと  
ができます。志望科が決定している方も、多くの科を回ってから将来を決定したい方にも  
おすすめてできると思います。また院内の雰囲気は医師のみならずコメディカルを含めて暖  
かく、職場環境としては非常に良いものと思います。研修医内の結束も強いいため、オン  
の時間のみならずオフの時間も充実すると思います。研修病院に迷われている方は、一度当  
院へ見学しにいらっしゃってはどうか？

簡単にはなりませんが、以上で 2 年間の振り返りとさせていただきます。最後に 2 年間  
佐野でお世話になりました全ての方々に感謝申し上げたいと思います。

## 2 年次研修医 田中健太郎先生（慶應義塾大学卒）

「佐野送別の言葉」

佐野厚生総合病院初期研修医 2 年目の田中 健太郎と申します。

当院の初期研修は 1 年目は内科を中心に厚生省が定める必修科をローテーションする形で  
すが、2 年目は 1 か月の救急科ローテーション以外の 11 か月は完全に自由にローテーシ  
ョンすることができるのが大きな特徴です。

自分は入職するときから整形外科を志望しており、1年目の12月に整形外科に進むことを決め、2年目は外科、皮膚科、形成外科、麻酔科など整形外科に必要な手技を学べる外科系の科と循環器内科、腎臓内科、呼吸器内科といった周術期合併症を勉強できる内科系の科を選択しローテーションしました。それぞれの科の先生方も整形外科志望の研修医であることを前提に様々なことを教えてくださりとても勉強になりました。

また2年目の1月から3月は整形外科を連続でローテーションしました。上級医の先生のご指導の下様々な臨床経験をし、後期研修の前の良いスタートダッシュとなりました。

当院の初期研修医は1学年6人の計12人です。仕事面でお互いに切磋琢磨するのはもちろんのこと、定期的に研修医全員で食事に行ったり、週末で空いた時間があれば複数人で旅行に行ったりと仕事以外でも楽しい時間を過ごすことができました。今後も後輩たちの頑張りが当院の診療の助けになることを願っています。

当院に少しでも興味をもった学生の方は是非見学に来ていただき、佐野厚生総合病院の魅力を味わっていただけたらと思います。

2年間ありがとうございました。

## 2年次研修医 西岡謙先生（慶應義塾大学卒）

佐野厚生総合病院初期研修医2年目の西岡謙と申します。

この度初期研修を終えるにあたり、2年間の研修について感じたことについて、率直にお伝えしたいと思います。

佐野厚生総合病院の初期研修の特徴として以下の2点が挙げられると思います。

1. 医師を含めて医療スタッフが暖かい
2. 初期研修医が一戦力として働いている

まず、①に関してですが、一度見学していただくだけでも実感するのではないかと思います。ベテランの先生に分からないことを聞いても、大変忙しいにもかかわらず快く教えてもらえます。他科へのコンサルトでほとんど関わったことのない他科の先生にご相談しても親身に接してもらえます。また、看護師はじめ医療スタッフに関しても同様で、点滴の取り方といった初歩的なことであっても丁寧に教えてもらえます。こういった親身で教育的な雰囲気は佐野厚生総合病院の特徴であると思います。

また、②に関しても当院の強みであると思われます。特に救急外来では救急搬送患者も含めて全ての患者の初期対応は初期研修医が対応します。救急患者に問診し、所見を取り、検査をオーダーし、アセスメントを行い、初期治療を行うという医療の基本の流れをしっかりと身に着けることができます。もちろ

ん、上級医も救急外来を担当しており、症例のフィードバックを得ることが出来ます。当院は人口約12万人規模の佐野市で急性期医療を行っている主たる病院であり、多種多様な症例を検討することが出来るため、初期研修医のうちに相当な経験を積めるのではないのでしょうか。病棟でも初期研修医は一戦力として働いており、積極的に診療に参加しながら経験を積むことが出来ます。

以上の2点が佐野厚生総合病院の特徴ではないかと思います。当院での研修に少しでも興味がある学生の方には、ぜひお越しいただきたいと思います。実際に働いている研修医の声を直接聞くことが研修病院を決めるうえで一番役に立つと思います。

## 2年次研修医 野本敦子先生（デブレツェン大学卒）

「研修医2の声」

研修医2年目の野本敦子です。

私はハンガリーデブレツェン大学医学部を卒業し、日本で医師免許を取得しました。そのため、まわりに日本の医学生の友人もおらず、全く情報のない状態からマッチングの準備を開始し、手探りの病院選びでした。

初めて当院の見学に訪れた際、院長先生をはじめとして上級医・研修医の先生方、メディカルの方々が温かく接して下さったことが印象に残っています。その雰囲気良さや、豊富な症例数、手技が数多く経験できるといったところに魅力を感じ、当院を研修病院として選択しました。しかし、日本の医療の場にはほとんど触れたことがなく、当然大学の先輩もいない、さらには私以外の研修医が全員男性であったことに不安を感じながら入職しました。

入職後、すぐに自分の不安が取り越し苦労であったと気づきました。

市中病院ならではの「習うより慣れろ」で、即戦力が要求される場に戸惑ったこともありましたが、すぐに上級医や先輩研修医からのアドバイスを頂ける環境で、医師としての知識・手技・心構えなどを成長させることができたと考えています。

また、研修医だけの研修医室があり、研修医同士で症例や業務について互いに相談したり、雑談を交わすこともしばしばありました。研修医は1学年6名と適度な人数で手技や症例の奪い合いをすることなく、切磋琢磨することができました。当初、海外の医学部出身、女性ひとり、という状況でしたが、全く疎外感を感じることなく研修を修了することができたことを心から感謝しています。上級医の先生方との交流も多いことから、人間関係が構築されやすく、コンサルトしやすい環境が整っていたことも、研修の質を上げてくれる要因の一つであったと思っています。

ストレスなく、初期研修で学ぶべきことは過不足なく学べる病院だと思います。みなさ

人も是非一度見学にいらしてみてください。

## 2 年次研修医 星健太先生（慶應義塾大学卒）

初期研修を振り返って

### 【本文】

佐野には、田舎とも都会ともつかぬ面白い空間が広がっています。人も自然も各々の時流に沿って過ごしていることを感じます。それは恐らく人口の多寡や道の広さで表されるものではなく、どこか落ち着いた瀬場のようなものの表出なのかもしれません。研修ではその多くを佐野で過ごしたわけですが、或いは幾星霜と表現したくなるような長いとき、或いは弾指の間と言いたくなるような寸時の出来事だったと、これもまた渺として掴みどころがありません。

厳冬を越え漸く彩りを戻してきた橋梁の欄干から、撚り糸の合して縞を成し当院を喩えるが如き一衣帯水を象る秋山川（という川が近くにありますが）の潺湲たるを片耳に、2年の歳月を顧みてみると、当初の志など僅かも貫徹することはできず、ただただ荏苒として日月を代謝してきたと転た悔責の念に堪えません。

自分がここで何をしたかと反省するより先に、毎日創られた思い出が去来してきます。

ところとときを同じくして過ごした研修医の一人一人にあっては、あるときは協心して難事に当たり、またあるときは生じた・与えられた仕事を怡々として熟し片時も椅子に根を生やすことなく、憧憬とも尊崇ともつかない気分を以て見ておりました。決して讒らず欺かず、至誠の中にも千紫万紅の個を鏤め、日常の会話や行動のうちにそれらを垣間見ても嫌い毎日でした。

研修そのものに関しても、篤実で大変な雅量のある指導医の先生方をはじめとして様々なスタッフの方々が陰日向となり支えてくださるもので、一切零落れることなく、楽しく勉強することができました。油断すればあっという間に新規の学問や身の回りの情報から取り残される、斯くの如き生き馬の目を抜く世の中にあって安閑無事に過ごすことができたことは決して一人の手柄ではありませんし、どこの病院でもなしうることではありません。このうえなく良い経験を積んで卒えることができました。

滑るように過ぎていく時間は、研修が終わってからのの方がより色濃く感じられるようです。堆く積み重なるここでの歴史において、その碑に何かを銘ずることができるとしたら、仲を良くしてくれた同期や後輩、研修医という立場に対してとは到底考えられないほどの厚情をくださった先生方やスタッフの方々と送った時間そのものだと思います。

もしも、多岐に互る研修先を決めることに亡羊とされるなら、是非この醇風美俗の地へ一度足を運んでみてください。

## 1 年次研修医 飯塚秀人先生（慶應義塾大学卒）

### 「研修医の声」

初期研修医 1 年目の飯塚秀人と申します。まだ医師として働いて 1 年と若輩者ではありますが、この初期研修の折返しの時期に自分の感じたこと等について書く機会ができ嬉しく思います。

この 1 年を振り返ると、人生の中でも変化の大きい年でした。何よりも、勉強する立場としていわば「一歩引いて」学んでいた環境から、現場に出て動きその上で自分にできること・身につけられることを探していくという環境への変化が大きいでしょう。当院のもつ、この滑り出しのサポート体制というのは素晴らしいものでした。丁寧なオリエンテーションや、2 年目の先生方と一緒にいる当直、そして何よりも上の先生との距離の近さが自分にとってとてもありがたく感じました。様々な診療科の先生方と頻りにディスカッションすることで、臨床医として働く上での思考回路の切り替えや、より良い勉強方法や参考書などを学ばせていただいております。

先生方との距離の近さはそのまま研修の自由度にも直結しています。もちろん、当院においては 1 月単位と決められた枠内での研修となりますが、その研修の中で何を学びたいか上の先生方と相談しながら調節していくことが可能です。研修の中で興味を持った分野について掘り下げていくことができる感覚というものは素晴らしいです。

当院は佐野という地域を支える病院であり、多くの患者さんが集まってきます。どんなに教科書で見慣れた疾患であっても各々背景が異なり、医学という切り口に限らないそれぞれ抱えている問題があります。疾患に特化した、または医学に特化したような病院では学べないような多くのことに触れることで研修を通して視野が広がる感覚があります。

残りの 1 年の研修は今まで以上にアンテナを張り、この立場でしか学べないことを確実に身に付けていきたいと思っております。

## 1 年次研修医 岩田紘佳先生（東京女子医科大学卒）

### 研修医の声

佐野厚生総合病院での研修医生活が始まって早一年が経ちますが、非常に周りの環境に恵まれて過ごすことが出来ていると感じます。

私たち研修医は一学年 6 人と少数ではありますが、何かとコミュニケーションが取りやすく、1・2 年目合同の研修医室で症例を検討し合ったり、時にはイベントを企画したりなどお互い助け合いながら楽しく過ごしております。

救急外来では 1 年目は 1 ヶ月間 2 年目とペアとなり診察から診断、患者さんやご家族と

の話し方を学んだ後、残り一ヶ月間は一人で救急対応を行っていく仕組みです。優秀な先輩方からのアドバイスはとても勉強になりました。ファーストタッチは自分一人に任せられますが、内科の先生に適宜方針を相談することができるので一人で困ることはありません。

当直は月 3 回以上と自分で回数を調節できるようになっています。上級医の先生方もネットワークが軽く、救急外来でコンサルテーションした際は診察のコツや疾患の知識を教えてをいただけることもよくあり質問もしやすい雰囲気があります。

またローテーションの自由度も高く、必修さえクリアしていれば途中で興味を持った科に変更や延長することが出来るので、進む診療科が決まっていない方には非常に良いと思います。

東京からのアクセスも比較的良好、満員電車などのストレスもないのでとても住みやすい土地だと思います。見学に来ていただければ、当院の雰囲気や研修医の話もより詳しく指って頂けるとと思います。

## 1 年次研修医 大崎皓郎先生 (慶應義塾大学卒)

佐野厚生総合病院で臨床研修を始めて早 1 年が経とうとしています。

初めての臨床で右も左も分からなかった私に、臨床医としての立ち振る舞いや臨床に役立つ知識を教えて下さった上級医の先生方、いつも面倒を見てくれた研修 2 年目の先輩方、外来や病棟で困っている時に様々なアドバイスを頂いた看護師さん方、その他コミディカルの方々にこの場を借りて感謝申し上げます。いつも優しいご指導ありがとうございます。

私が感じた当院研修の魅力を挙げていきます。

一つは雰囲気の良さです。土地柄か親切な人が多く、また研修医の人数が 12 名と比較的少なく職員みなさんに顔を覚えて頂けるので、温かい雰囲気で過ごせています。そのおかげで日々の雑務でも余計なストレスを感じることなく研鑽を積むことができます。また上級医との距離も近く、相談しやすい環境にあることもより良い研修につながっていると感じます。

豊富な症例や手技も魅力の一つです。上級医とマンツーマン体制なので症例の取り合いになることはなく、救急業務も研修医ファーストタッチなので症例に困ることがありません。また自主性を重んじてくれるので、やる気次第で多くの症例や手技を経験し、日々成長を実感することができます。

柔軟なカリキュラムも魅力の一つです。内科 6 ヶ月、救急 3 ヶ月、地域医療 1 ヶ月、麻酔科 1 ヶ月、選択必修 1 ヶ月は必ずローテートする必要がありますが、その他 12 ヶ月は自



由にプログラムを選択することができます。これは他の研修病院よりも自由度が高く、志望科が決まっている人にとっても、そうでない人にとっても好都合だと思います。

最後に、「研修医の声」を読んだ学生さん、少しでも当院での研修を考えていたら是非一度見学にお越し下さい。雰囲気良さを肌で感じ取って頂けると幸いですよ。

## 1 年次研修医 鍛冶場寛先生（慶應義塾大学卒）

初期研修医 1 年目の鍛冶場寛です。

佐野厚生総合病院で研修が始まってから、気がつけば早いもので 1 年が過ぎました。1 年過ごせばいろいろな感想が出てきます。今回はメインターゲットである、これから研修先の病院を探すであろう学生さん向けに簡潔に書きたいと思います。

当院の強みは、一言でいえば自由であることといえます。当直の回数も最低限入れば自由、回る診療科も必須の科を除けば自由、休日の過ごし方も日当直がなければ自由。なににより「望めば叶う」環境であり、回っている診療科で積極的に過ごすもよし、消極的に過ごすもよしです。手技も積極的にやらせてもらうことができ、診療への関わり方も自分次第で如何様にも変えられます。雑用が少ないため、勉強するための時間を確保することも容易です。

逆に、受動的にやりたい場合には当院はあまりお勧めできないかもしれません。自分の裁量の範囲が広いと、やらないことを選択することもできます。そのため時間を無駄にすることが他の病院よりも容易であるとも感じます。誘惑が多い中で自分をいかにコントロールできるか試される、そんな地かもしれません。

他にもスタッフの雰囲気や科の強み弱み、立地や給与など考えることはたくさんあるし、あってしかるべきと思いますが、僕はこの自由度が最も大切と考え当院を選びました。実際は他の研修病院と大きく違うかといえばそうでもないかもしれませんが。皆さんが色々考えた結果、当院を選んでくれるとうれしいです。

## 1 年次研修医 黒川安晴先生（慶應義塾大学卒）

研修医の声

当院では、研修医は“**ほぼ主治医**”として指導医、コメディカルの皆さんから扱われます。点滴や内服薬はもちろん日々の検査、他科コンサルやリハビリ依頼、冒頭で述べた人工呼吸器の設定、時にはご家族への病状説明など、ほぼ全ての

病棟業務を任されることとなります。もちろん、治療方針の変更は指導医への上申を必要とし、そこで誤りは修正されます。また、CV挿入や胸腔穿刺といった手技は上級医の付き添いの下行うので全責任を負うことは決してありませんが、研修医にかかる責任は他の病院より大きいと思います。

このように、当院では良い意味で**“研修医に任せる”**体制が整っており、主体性を持って取り組むことによって自らの力を大きく伸ばすことができます。仕事を任される機会が多い分、自分で考える機会に恵まれるので、分からないことはその都度調べていく過程で自然と必要な知識を学ぶことができます。こうして自分で方針を立てた上でどうしてもわからない部分に関しては気軽に上級医に質問できる環境が整っています。病棟や医局にいらっしゃる各科専門医は「今病棟で困っていることない？」と声をかけて下さるので、一人で全てを抱え込む必要はありません。

当院は都内の大病院と比較するとその規模は決して大きくはありません。病床数は531、医師数は77にすぎません。それでも、地域医療支援病院として年間12000人以上の救急患者を受け入れており、佐野市の約12万人の医療を支えています。医師の数は少ないですが、それゆえ医師同士の**“距離”**はとても近いと思います。ほとんどの先生は顔見知りになるので気兼ねなく相談、質問ができます。土地柄か、スタッフは穏やかな人ばかりで、他の病院では研修医が担当するような雑用も看護師さん初めとしたコメディカルの方々が担って下さり、ストレスなく研修に集中できます。

医師としての生活が始まってまだ半年。自分ができないこと、知らないことはあまりにも多く自身の無力さを痛感してばかりです。それでも、仕事を任せてもらい、調べ考えながら少しずつ自分ができること、知っていることが増えていくことを実感できています。これからもこの恵まれた環境でさらに成長できるように、今後も努力を続けていきたいと思っています。

## 1 年次研修医 小西駿一郎先生（慶應義塾大学卒）

「研修医の声」

初期研修一年目の小西駿一郎です。

佐野厚生総合病院での臨床研修が始まり早1年になりますが、あっという間であったように感じます。私は臨床研修先として、まずは学生時代の環境を変えたくて大学病院より市中病院を念頭に置いていました。その上で、本格的に環境を変えるには実家や大学のある首都圏より、関西や北関東など親しみや関係のない場所に行きたいと考えました。そ

うして大学関連外の病院も含め色々と回りましたが、問題もありました。例えば、①名も知らない市中病院だと指導の質が一定しないこと、②最新情報の多い勉強会や3年以降のキャリアを考えるにあたり、東京へのアクセスは日帰りできる程度が一番良いこと、③回りたい科がない、④福利厚生の有無、などです。そうした点から最終的に絞らせて頂いた中で、佐野厚生総合病院に内定を頂きました。自治医大、慶應大、群馬大など様々な医局の先生方が高い質で診療されており、指導して下さいます。東京へは高速バスがあります。福利厚生は家賃補助で家賃がほぼ無料の他、各種手当ても豊富です。唯一、血液内科や神経内科、心臓血管外科は病棟がないため、現時点で研修はできません。ただ、人口10万人の地域の中核病院であるため、そうした疾患を救急外来や病棟で診ることもあります。その他にも、研修医としてできる手技が幅広い点や、上級医の先生方とほとんど顔見知りになるのでコンサルや相談がしやすい点なども魅力です。また、佐野の地域柄も心惹かれる点であり、スノボや温泉の地域が近いこと、食材が安くておいしいこと、何より皆さん心優しく温かい方が多いことも挙げられます。ここでは、メリットしか挙げていませんが(笑)、ここまでで少しでも気になった方は気軽に見学に来て下さい。歓迎します！